

客演プロフィール



©渡辺力

寺嶋 陸也 (てらしま りくや)

東京芸術大学音楽学部作曲科卒、同大学院修了。オペラシアターこんにゃく座での演奏や、97年東京都現代美術館でのボンビドー・コレクション展開催記念サティ連続コンサート「伝統の変装」、2003年パリ日本文化会館における作品個展「東洋・西洋の音楽の交流」などは高く評価された。オペラ、室内楽、合唱曲、邦楽器のための作品など作品多数。作曲のほか、ピアニストとして内外の演奏家との共演、指揮、コンサートの企画など、活動は多方面にわたり、CDへの録音も多い。

ホームページ <http://www.gregorio.jp/terashima/>



具志 幸大 (ぐし ゆきひろ)

琉球舞踊家。1977年沖縄県那覇市に生まれる。86年琉球舞踊を又吉静枝に師事。99年琉球新報社古典芸能コンクール舞踊最高賞受賞。沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科舞台芸術専攻修了。沖縄県高等学校文化連盟功労賞受賞。現在、琉球舞踊玉城流いずみ会師範、琉球古典音楽安富祖流絃声会教師。2006年3月には初の独演会を東京・国立劇場と沖縄で開き、好評を博した。合唱との関わりは、2002年「うっさくあつたい」(瑞慶覧尚子作曲)、「沖縄のスケッチ」(寺嶋陸也作曲)等。

第3曲「だんじゅかりゆし」もとは船出に際して海上の平安を祈る歌でしたが、今では舟にかぎらず旅に出る人の無事と健康を祈り、旅立ちを祝福して歌うようになった、沖縄本島の民謡です。はじめに歌われるゆるやかな部分と、出港のときに歌ったという速い部分との2部からなっています。

第4曲「私たちの星」この曲はまったく新しく作曲した曲で、谷川俊太郎さんの詩に沖縄ふうの音階でメロディーをつけました。「沖縄のスケッチ」全曲のテーマを象徴する間奏曲となっています。

第5曲「久高(くだか)」沖縄本島の民謡をもとにしています。久高万寿主(くだかまんじゅしゅ)という遊び人のことを面白おかしく話してきかせる内容の歌で、そのストーリーもところによりさまざまに伝承されています。エイサー(旧盆に、太鼓や三線にあわせて踊り、歌いながら練り歩く沖縄の伝統行事)で使われる代表的な曲でもあります。

第6曲「赤田首里殿内(あかたすんどんち)」沖縄本島のわらべうたをもとにしています。本島南部の首里の三つの神殿のうちの一つが「赤田殿内」で、この歌の前半は赤田で「弥勒まつり」という豊年祭の行事の歌だったらしく、第1曲の「あかなー」のうちのひとつと同じ旋律です。歌の後半「シーヤブー」などのはやしことばの部分は、こどもや赤ん坊を遊ばせる歌です。

第7曲「唐船どーい」沖縄諸島全域でもっとも良く知られた歌です。カチャーシーという自由なふりつけで踊られる踊りとともに演奏されることが多く、歌詞も踊り同様にその場で即興的に作られるのが本来の形で、歌詞に応じて旋律さえもいろいろに変化するようです。テンポが速く盛り上がるので、宴や祭りの最後のほうで踊られることが多いようです。